

1. 評価結果概要表

作成日 2007年5月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1272700566
法人名	医療法人社団千葉医心会
事業所名	グループホームじょんから
所在地	〒270-1101 千葉県我孫子市布佐3078-9 電話 04-7181-6266

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	〒260-0026千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成19年5月18日
評価確定日	5月29日

【情報提供票より】(19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤4人, 非常勤14人, 常勤換算5.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	70,930 ~ 73,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
または1日当たり 1,000円				

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	61 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉ニュータウンクリニック きおろし歯科 平和台病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームじょんから」は静かな住宅街の一角に位置し、建物内はバリアフリーのゆったりとした造りになっている。隣接しているスーパーへの買い物や散歩など、入居者が出かけたい時にはいつでも職員が寄り添い、入居者の希望に添った支援が行われている。また、毎月職員が課題を決め、持ち回りで講師を務める学習会や、法人内の勉強会、外部研修への参加など、人材育成にも積極的に取り組んでいる。母体は医療法人で医師でもある法人代表は、自ら三味線、二胡、オカリナを習得し、ホームを訪れ演奏し、入居者と音楽を楽しんでいる。当日も、演奏が始まると口数の少ない利用者が歌を口ずさんだり、踊り出すなどホーム全体が楽しい雰囲気になっていった。職員の意識も高く、地域交流の積極的な働きかけも始まり、またターミナルケアを検討するなど、今後益々期待のできるホームと言える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の改善課題である申し送りの不備は、担当者同士のマンツーマンによる引継ぎ方法を取り入れた。地域交流の取り組みに関してはすでに働きかけを行っており、ホームの玄関前に掲示板を設置し、ホームで催されるイベントに地域住民の参加を促す案内文を出している。また、椅子の高さや羞恥心に対する配慮については、入居者の希望を尊重し、支援している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義・理解は全職員認識しているが、最近になって管理者の交代があり、自己評価の取り組み方についての引き継ぎが不十分で、今回の自己評価は全職員での話し合いは行われなかった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2007年4月に第1回目が開催された。参加者は市の担当者、民生委員及び地域、家族、入居者の各代表の出席で行われた。市や地域代表から入居者と職員による手作りの作品を、福祉センターで行うバザーに出展するなどの意見が出された。出来る限り要望に応えられるよう検討中である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情相談の窓口代表者を、重要事項説明書や玄関の掲示板に明記している。また、意見箱の設置もされている。面会時の声掛けや、定期的に郵便や電話で入居者の近況報告をするなど、家族との連絡を密に行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の祭りやゴミ拾いに参加している。また、ひな祭りなどには保育園児をホームに招き交流を図ったり、近隣の小学生のジャズダンスの発表の場にホームを提供するなどしている。隣接のスーパーには非常時の際の協力を願い出たり、地域に溶け込もうとする努力が伺える。</p>

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員話し合いのもと「地元の人達と交流を持ちながら、明るく家庭的な雰囲気を目指す」という理念が決められている。そして、それはホーム独自の理念として玄関、事務所に掲げられている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎朝の申し送り時や、毎月第2火曜日開催する職員会議で理念を読み上げ、全職員で共有を図っている。パンフレットにも理念を記載し、それをスーパー、近所の商店に置いている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、祭りやゴミ拾いなどの行事に参加している。ひな祭りなどには保育園児が訪れている。また、地域の子供のジャズダンスの発表に場を提供し、その案内を玄関前に掲示して近隣住民にホームへの来訪を促している。		近隣住民がもっと気軽に立ち寄れるホーム作りを目指し、持ちつ、持たれつの関係作りの実現に取り組むことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価を職員会議で話し合い、毎月目標を決め、改善に向けた取り組みを行っている。前回指摘を受けた項目に関しては、入居者との話し合いで改善方法を試みたが、入居者の意思を尊重し、従来どおりの支援となった。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の異動などで運営推進会議の開催は1回のみであるが、近々2回目を予定している。市の担当者、民生委員、地区代表、家族、入居者の代表などが参加し、要望、意見を出し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の方に出向き情報提供を行うなど、行政との連携は取れている。市の職員からの提案で入居者と職員の共同制作で手作りの小物を福祉センターで売る、ボランティアへの参加依頼など、要請に応えられるよう検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に話しをしている。近況報告は随時電話でも行っている。来訪しない家族には月一度、状況や金銭出納帳を送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱の設置や、苦情・相談担当者の掲示も明確である。また、月に一度介護相談員の受け入れもあり、意見などを言う機会を設けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった時は、案内状を家族に送付し、理解を促している。入居者への対応はホーム全員でお別れ会を催し、ダメージを最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員それぞれが習熟度に応じた研修を受講できるよう、情報提供を行っている。職員は、法人内部の学習会・外部の研修等を受講することができる。職員は学ぶことに意欲的で、研修後は全員にフィードバックしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、月2回管理者会議に出席し、情報交換を行っている。また、職員も他のホームを見学することで、気づきを得てサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1日体験を行い、見学を兼ねホームに来てもらい、家族の協力も得て、徐々にホームに馴染んでいけるよう取り組んでいる。1度で馴染めない場合には、繰り返し体験してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	草取り、洗濯たたみ、食器洗いなど、入居者の出来ること、できない事を把握し、一緒に行うようにしている。また、入居者から漢字や天気図の見方、野菜の切り方を教わっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望通りの支援を行うため、職員が連携しケアを行っている。希望を伝えるのが困難な場合は日常の会話や表情、行動などを注意深く観察し、把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医師も含めたチーム会議を行い、課題を検討、把握し、介護計画に反映している。又、会議の際は家族にも声をかけ、出来る限り参加をしてもらっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直すと共に、変化があった場合は、その都度本人や家族の希望を取り入れながら、計画を評価、更新している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の先々の状況をふまえ、体制作りを検討すると共に、地域住民の理解が得られるよう、同法人グループでチャリティ演奏会を行ったり、行事の際に地域住民に呼びかけするなど、地域の拠点に向けた活動を始めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症に理解のある医師が毎週往診するほか、以前からのかかりつけ医に受診を希望する場合は情報提供を行い、希望の受診のための支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が入院した場合や身体機能が下がった場合も、本人や家族の希望をふまえ、少しでも長くホームで支援したいという方向性を職員が持っており、今後はターミナルも含めたケアを検討していく予定である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を守ることを心がけ、排泄、入浴をはじめ、支援をする際には、説明と同意を得るようにし、個人情報についても記録や写真の扱いなどにも細心の注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者が月の目標を決め、それに近づけるよう毎日チェックを行っている。職員は散歩などにも個別に何度もつきあったり、隣りに座ってゆっくりと話を聞いたりしている。入居者は、思い思いに好きなことをして過ごす姿が見受けられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査により好き嫌いを把握し、献立に反映している。誕生会や外食会では、好みのものを召し上げて頂いている。また、その都度、メニューも個別に対応され、食べやすくする工夫もされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により、毎日入浴出来る。入浴をあまり好まない入居者にも定期的に週2～3回は入って頂き、清潔を心がけている。入居者の希望にそった支援を心がけているが、就寝前などの職員が手薄な時間帯では希望に添えない場合もある。		入浴時間をホーム側で固定せず、可能な限り、入居者の希望に即した入浴支援をすることが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯たたみなど、出来る事は何でもやって頂き、やる気や達成感を持って頂くようにしている。役割を失いがちな男性にもメダカの餌やり、草取り、会話の主役になって頂くなどの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が外出したいときには、希望を優先できるよう職員同士が都合をつけ、散歩や買い物に出かけている。出かける時には声かけをし、外出をしたがらない入居者も誘うようにしている。月行事では2ユニット全員で楽しく出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は常にあけている。ユニット間の行き来も外出も自由である。2階ユニットのドアには鈴を付けて外出を察知し、見守りによって階段などの危険を防いでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、年2回避難訓練を行っている。隣接するスーパーにも非常時の協力体制をお願いしている。		職員の日頃からの努力により、地域とのつながりが出来初めている。夜間の災害時など、いっそうの協力を得られる体制作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし、栄養バランスの指導や相談を栄養士に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床面には畳を取り入れたり、照明の明るさを柔らかいものにするなどの工夫がされている。飾り棚には作品やアルバムなどが、手の届く位置にすっきりと置かれ、木のぬくもりと清潔感が感じられる空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々の部屋には思い思いの品が持ち込まれ、居心地良く過ごせるようになっている。また、家族や職員が話し合い、入居者の状態に合わせた安全な部屋作りにも留意している。		